

平成26年度 第3回理事会議事録

- 1 開催年月日及び時刻 平成26年10月29日(水)
14時00分 ~16時25分
- 2 開催場所 千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォーム 505会議室
- 3 出席理事名 松本晟、麻生茂、稲田伊彦、鍛冶壮一、栢森秀行
- 4 欠席理事名 秋山深雪、藤島豊久
- 5 出席監事名 清水眞金、棚橋秀行
- 6 事務局出席者 安田みお(議事録作成)、小定弘和
- 7 審議事項
第1号議案 専務理事の互選について
- 8 報告事項
 - (1) 理事の就任について
 - (2) 平成26年度上半期事業報告及び収支決算について
 - (3) 特定費用準備資金について
 - (4) 連携団体長会議の準備状況について
- 9 その他
- 10 議事の経過及びその結果
 - (1) 出席者と定足数の確認等
定刻につき、定款第33条に基づき理事長が議長となり、理事総数7名中5名の出席により定款34条第1項に定める定足数を充たしているとして、本理事会が成立していることを確認し、議事に入った。
 - (2) 前回議事録の確認
議長より、平成26年度第2回理事会議事録について、意見をもとめたところ、特になく議事録内容について異議なく承認された。
 - (3) 議案の審議及び決議事項の結果等
議案審議に入る前に、事務局 安田より、資料No.2に基づき、平成26年8月11日付、稲田伊彦氏の理事の選任について評議員書面評決決議を行い、平成26年9月2日付で理事就任となった旨、報告を行った。
続いて、平成26年10月27日に、平成26年10月29日付で秋山理事の辞職届が提出された旨、報告を行った。
 - (4) 議案審議
第1号議案 専務理事の互選について
事務局(安田)より、資料No.1に基づき、前回理事会では専務理事互選は先送りされたことから、今回の理事会において定款23条第2項の規定により、資料記載の専務理事補者の中から専務理事互選をお願いしたい旨、説明を行った。
本議案について諮った結果、松本理事長の推薦を受けた稲田理事が専務理事に選出され、異議なく承認された。

この議決承認により、専務理事が決定したので、本会議の報告事項 資料No.3から稲田理事が議事進行を行った。

(5) 報告事項

① 平成26年度上半期事業報告及び収支決算について

事務局(安田)より、資料No.3-1「平成26年度 事業報告書(上半期)一覧」と資料No.3-2「平成26年度事業計画に対する実施状況」について、資料No.3-3「平成26年度収支予算書に対する上半期収支決算書」について、報告を行ったところ、以下の質疑応答及び意見があった。

麻生理事より、分団結成の前に理事会で連携団体としての承認が必要だが、今回設立した分団は事前に理事会へ承認行為があったかとの質問に対し、事務局(小定)から、今回の4分団についても理事会メーリングリストを使って理事、監事の皆様に事前に申請書類のコピーは送付済である。再度送付記録を確認して後日ご連絡することとしたいとの返答があった。

また、稲田専務理事より、分団結成時期と理事会による承認の時期に齟齬ができるのではとの懸念に対して、栢森理事より、理事会に対する承認をメール等で事前に求めるに際し、回答期限を設け、それまでに返答がなければ承認されたものとするれば、迅速に処理できるのではないかとの意見があり、今後のこの方向で実施することになった。

麻生理事より、事業報告書には、収支決算書に出てこない講師派遣等事業についても記載すべき、との意見があり、今回の未記載分を本事業報告書に追加することとなった。

棚橋監事より、予算に対して上半期は何%達成したかを数値化して下半期の収支目標を見極め、赤字にならないようにしてもらいたい、との意見があり、稲田専務理事から、下半期も収入と支出の状況を確認しながら事業等進めていきたい旨の説明があった。

② 特定費用準備資金について

稲田専務より、資料No.4に基づき、特定費用準備資金について、公益移行申請時に設定した経緯等を説明した後、平成26年度第1回理事会において、2つの特定費用準備資金の事業を1つにした計画変更案が示され、第2回理事会では、準備作業のため資金一部取り崩しが決議されたが、内閣府公益認定委員会事務局担当者へ計画変更について問い合わせしたところ、「宇宙子どもワークショップ記念事業」と「日本宇宙少年団30周年記念事業」のそれぞれ目的の異なる事業を1つにして考えるのではなく、個別に見直すべきであるとの指摘があったとの報告を行った。

麻生理事からの、提案資料(案)に基づき、特定費用準備資金を使った両記念事業の実施内容について、提案があった。この提案に対して、稲田専務理事から、「日本宇宙少年団30周年記念事業」は、来年度の実施に際して、できれば内部の

人だけで検討するのではなく、今までYACを支援し賛同してくれた外の人を入れた実行委員会形式で検討したほうが内容に幅が広がるのではないかとの意見があり、麻生理事より、実行委員会形式で検討することは賛成であるが、時期的にも1月頃から始めないと間に合わなくなること、また、同時に、全国のそれぞれのブロックで一般の人たちも集めてリーダー研修会を開催することでYACのリーダーをさらに増やすことに繋がっていくようにできればよいとの返答があった。

稲田専務理事より、「日本宇宙少年団30周年記念事業」の費用が実施年度の前の今年度から使用できるのか不明であるので、いつから使用できるかを内閣府公益認定委員会事務局に確認したいとの話があった。

また、棚橋監事から、「宇宙子どもワークショップ記念事業」は今年8月に実施できなかったが、時期をずらして11月に開催する予定のため、発生費用は800万円より差引き、残りを平成32年までの間、分割して使用していくことを追加することとし、内閣府公益認定委員会への提出資料表に当該活動の実施予定時期も年度だけを入れ、具体的な月は入れないで内閣府公益認定委員会事務局に再度確認すればよいのではないかとの意見があり、稲田専務理事より、最終的には内閣府に、記載方法も含め確認することとした。

③ 平成26年度日本宇宙少年団連携団体長会議のご案内

事務局(小定)より、資料No.5にもとづき、11月23日(日)開催の連携団体長会議について、実施内容等の説明を行った。

麻生理事より、前日22日(土)に開催するワークショップは今年から実施するため、その案内も紹介するよう指摘があり、追加資料としてワークショップの案内を配布し、事務局より、実施内容等の説明を行った。

以上をもって16時20分議案審議等を終了し、議長は閉会を宣した。

以上、この議事録が正確であることを証とするため、理事長及び監事は記名押印する。

平成26年10月29日

理事長 松本 晟

監事 清水 眞金

監事 棚橋 秀行